

～未来を担う子どもたちのために～ 除染の進捗状況をお知らせします

東 町第2公園、鷹巣第3公園、緑が丘幼児遊園、萩ヶ丘公園、材木岩公園(親水広場)、益岡公園(二ノ丸)の除染を行いました。作業内容は、草・芝を刈り取った後に整地を行い、植栽付近の落葉等の堆積物を取り除きました。その後、汚染されていない山砂などで覆土し、遊具の表面をきれいにふき取りました。材木岩公園は、親水広場の園路表面の堆積物を取り除いた後に、ブラシ洗浄を行いました。

この作業を行った結果、各公園の平均空間放射線量は右表の通りになりました。

今後は、引き続き公園の除染を進めるとともに、「白石市除染実施計画」に基づく対象区域内の民有地除染の準備を進めるため、区域内の住宅などを訪問し、空間放射線量を測定します。

市は、これからも市民の皆さんの不安を払拭するため、放射能対策に全力で取り組んでいきます。

☎放射能対策室(旧勤労青少年ホーム内) ☎25-3720

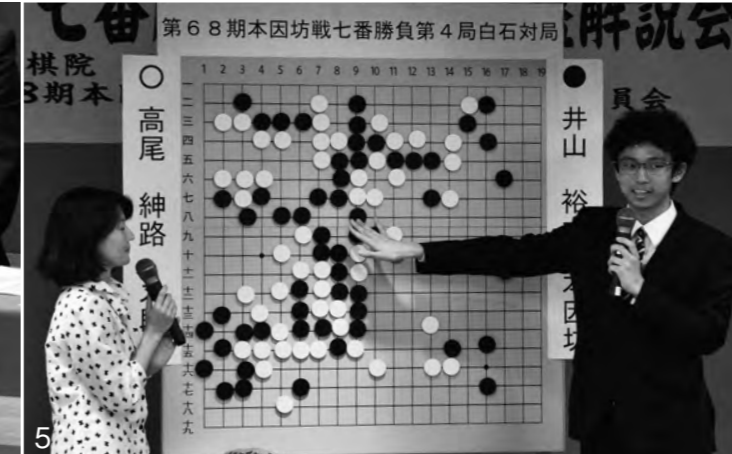
<http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/taisaku/>

施設名	除染前の測定値	除染後の測定値
東町第2公園	0.23(平成25年5月14日)	0.10(平成25年6月11日)
鷹巣第3公園	0.25(平成25年5月29日)	0.12(平成25年6月17日)
緑が丘幼児公園	0.26(平成25年5月15日)	0.11(平成25年6月17日)
萩ヶ丘公園	0.28(平成25年5月15日)	0.09(平成25年6月17日)

※単位はマイクロシーベルト。公園は、園内5点を測定した平均値。
※材木岩公園(親水広場)、益岡公園(二ノ丸)の除染効果は、まとも次第、お知らせします。



▲材木岩公園の除染作業の様子



1. 第一手目を打つ井山本因坊 2. 「子ども囲碁交流大会」ではプロ棋士による指導碁も行われ、子どもたちは真剣な表情で手ほどきを受けた
3. 囲碁が題材の古典落語を披露する桂歌助さん 4. 能舞台上で対局を行う井山本因坊と高尾九段。対局の冒頭が初めて一般公開された 5. 大盤解説を行う一力遼三段(右)と岡田結美子六段(左) 6. 5年ぶりの復讐を担う挑戦者の高尾九段

郷土の伝統文化を受け継ぐ 第21回白石市伝統芸能フェスティバル

6月29日、「第21回白石市伝統芸能フェスティバル」(白石市伝統芸能振興会主催)が碧水園で開催されました。この日は、箏曲や謡、仕舞、詩吟、日本舞踊など、碧水園で活動する7団体約50人が出演。日ごろの練習の成果を披露し、来場者に伝統芸能のすばらしさを伝えました。同振興会の麻生靖子会長は、「白石は文化が豊かなまち。次の世代にきちんと伝えていくため、これからも芸を磨き、伝統を受け継いでほしいと思います」と話しました。



1. 白石早風会 連吟「船弁慶」
2. 直派若柳流宝梅会・中川ひなのさん「娘花売り」
3. 宮城岳風会白石教場 詩吟「失題」
4. 弥登孝会 長唄「船揃」
5. 生田流箏曲朋美会 箏曲「花筏」
6. 白石喜多会・高砂を謡う会 素謡「羽衣」
7. 山田流鎌田佐美音白石教場 箏曲「みだれ」

本因坊戦史上初! 「第68期本因坊戦第4局」が碧水園能楽堂で開催 初の試みで対局冒頭も一般公開! 世代を超えて囲碁や交流を楽しむ

6月16日～18日の3日間、「第68期本因坊戦第4局」(毎日新聞社、日本棋院、関西棋院主催)と「白石開催記念事業」が本市で開催された。囲碁の七大タイトル戦のひとつで、タイトル保持者とリーグ戦を勝ち抜いた挑戦者が7番勝負で対局を行い、勝者が本因坊の称号を手にする「本因坊戦」。16日は、17日、18日の両日に行われる「本因坊戦」を盛り上げるため、「宮城・福島子ども囲碁交流大会」が中央公民館で行われ、小学生など約70人が対局を通じて交流を深めた。

小原温泉「旅館かつらや」で行われた「前夜祭」では、井山裕太本因坊と挑戦者の高尾九段がそれぞれ決意を表明。井山本因坊は、「東日本大震災にあっても前を向いて頑張ってきた東北の方々をお手本に、勝ち上がりたい」と話し、高尾九段は、「宮城で対局できることは本当にうれしい。喜んでもらえる碁を打ちたい」と語った。

6月17日は、「本因坊戦第4局」が開戦。第1局は井山本因坊、第2、3局は高尾九段が連勝。第4局は高尾九段が3勝目を挙げ、2勝2敗のタイに戻すか、重大な節目となる対局が碧水園能楽堂で開催された。

能楽堂での対局は、本因坊戦史上初めて。そして初の試みとして対局冒頭が一般公開され、約50人が張り詰めた雰囲気の中で対局を見守った。また、中央公民館では、「囲碁大会」が開かれ、参加者約60人が白熱した盤上の戦いを展開。さらに、落語家桂歌助さんの「囲碁落語」が開かれ、ユーモアあふれる語り口で参加者約90人を喜ばせた。

18日は、「本因坊戦第4局」が再開。前日に続き、碧水園能楽堂で対局冒頭が一般公開され、約40人がナマの対局に真剣な表情で見入った。また、中央公民館では、「プロ棋士による大盤解説」が行われ、約130人が参加。本因坊と挑戦者がしのぎを削る激しい攻防の解説に聞き入った。さらに、「プロ棋士による指導碁」も行われ、約70人が手ほどきを受けた。

「本因坊戦第4局」は、2日間の激しい攻防の末、井山本因坊が勝利。対戦成績を2勝2敗のタイに戻し幕を閉じた。

能楽堂での対局や、対局冒頭が一般公開されるなど、初めての試みが満載となった今回の「本因坊戦」。囲碁に関連した行事もにぎやかに開催され、子どもも大人も世代を超えて囲碁や交流を楽しんだ。